

「全鍍連」 2023年 8月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 京田 高裕（東九州電子工業(株) 代表取締役）

「旅の思い出」

コロナも 5 類に移行されて、海外旅行なども制限がなくなってきましたので、過去行ったことのある旅について書こうと思います。

今まで、仕事も含めて海外へも何か国が行きました。幾度も行っているのは、タイ王国ですが、さすがに仕事で行っていませんのでこれといった観光地も行けていません。

ここでは、一番印象に残っている旅について書かせてもらいます。

1999 年に当時所属していた青年会議所でモンゴルへ国際貢献の研修旅行をした時です。

一般の子供たちを日本とは違う環境を体験させることで、国際感覚や自分たち日本の恵まれた環境を再認識させたりする事、更には国際貢献をして現地の人たちとの友好を図る事を目的に海外研修を行っていました。大分県単独では初めての事でしたが、関係者の努力でその夏に実現をさせました。

関空から MIAT モンゴル航空にてウランバートルへ旅立ちました。ウランバートルの空港は平原の中で、空港の横を馬が走っているような場所でした。

初日は首都であるウランバートルの日系のホテルに宿泊しましたので、普通の旅行という状況でしたが、次の日から日本語を学んでいるモンゴルの学生たちがグループごとについて郊外への旅でした。首都を抜けるとどこまで行っても草原が広がっています。

その草原の中で、ちょうど夏でしたので、我々のためにナーダムという祭りを行ってくれました。テントでは、すっぱい馬乳酒を飲まされ、子供たちが競馬を山の向こうまで走っていくわ、モンゴル相撲をやったり、弓矢での射的をやったりして皆が短い夏を楽しんでいる中に参加させてもらいました。とってもいい経験でした。

その日から 2 日、現地のゲルに民泊し現地の羊肉料理を食べさせてもらったり、馬に乗せてもらったり、言葉が通じないにもかかわらず一緒に満点の夜空を仰ぎながらモンゴルウオッカを飲んだこと、非常に貴重な経験でした。電気もなく、水も近くの川まで汲みに行くなど不便な生活ですが、なにより家族が幸せな生活を送っていました。

自分の生活が普通と思っている者にとって、全く違う世界に行くと、人間にとって何



が大切なのかを考えさせられる経験となります。また、日本の良さを認識するそんな旅でした。

機会があれば、もちろん暇や金があればですが、別世界を求めて旅をしたいものです。